



大学共同利用機関法人  
人間文化研究機構

## 総合地球環境学研究所



Research Institute for Humanity and Nature 2008



総合地球環境学研究所  
所長 立本 成文

### ごあいさつ

地球研(総合地球環境学研究所)は、いわゆる地球環境問題は人間の文化の問題であるとの視点から、人間と自然との相互作用のあり方を根本から捉え直そうとしています。人間生活の豊かさが増すにつれて深刻になってきている環境問題を、地球的視野で総合的に研究し、未来可能性のある社会を構築するのに寄与することを目的としています。研究プロジェクト方式を特色とする地球研は、本研究が常時14プロジェクト走っています。個々のプロジェクトの成果を元に、研究所の目的を踏まえた、地球環境学の発信に努めています。

平成20年4月

### [ 特色 ]

- 1 総合性** 自然科学、人文社会科学、工学、農学、医学などの異なる分野が一堂に会した総合的なアプローチをします。
- 2 国際性** 国外の研究機関とも強力な連携をはかり、招へい外国人研究員を構成員にくわえた研究体制をとっていきます。
- 3 中枢性** 全国の関連研究機関や研究者の協力を得ながら、専任教員が中心となって研究プロジェクトを企画・実施しています。
- 4 流動性** 「研究プロジェクト方式」に対応して、できるだけ流動性の高い研究組織にしています。



## ■ 2008(平成20)年度に進行する研究プロジェクト等 (2008年4月1日現在)

地球研の研究プロジェクトは、「インキュベーション研究」(IS)から始まり、所内の審査を経て「予備研究」(FS)になります。その後、予備研究の結果が評価を受け、研究プロジェクト評価委員会によって適切と認められれば、1年間の「プレリサーチ」(PR)を経て、5年程度の「本研究」(FR)が行われます。終了プロジェクト(CR)も評価を受けます。

### ●循環領域プログラム

本研究4年目 北東アジアの人間活動が北太平洋の生物生産に与える影響評価(プロジェクトリーダー：白岩孝行)

本研究3年目 都市の地下環境に残る人間活動の影響(プロジェクトリーダー：谷口真人)

本研究2年目 病原生物と人間の相互作用環(プロジェクトリーダー：川端善一郎)

本研究プレリサーチ 温暖化するシベリアの自然と人-水環境をはじめとする陸域生態系変化への社会の適応-(プロジェクトリーダー：井上 元)

予 備 研 究 都市をめぐる循環と多様性：人類と地球環境を架橋する巨大で複雑なシステムの未来可能性(FS責任者：村松 伸)

予 備 研 究 水質の地域多様性の探求：循環を基軸にした水管理に向けて(FS責任者：中野孝教)

### ●多様性領域プログラム

本研究3年目 日本列島における人間-自然相互関係の歴史的・文化的検討(プロジェクトリーダー：湯本貴和)

本研究1年目 人の生老病死と高所環境-3大「高地文明」における医学生理・生態・文化的適応(プロジェクトリーダー：奥宮清人)

本研究1年目 人間活動下の生態系ネットワークの崩壊と再生(プロジェクトリーダー：山村則男)

### ●資源領域プログラム

本研究2年目 民族/国家の交錯と生業変化を軸とした環境史の解明-中央ユーラシア半乾燥域の変遷(プロジェクトリーダー：窪田順平)

本研究1年目 熱帯アジアの環境変化と感染症(プロジェクトリーダー：門司和彦)

本研究プレリサーチ アラブ社会におけるなりわい生態系の研究-ポスト石油時代に向けて-(プロジェクトリーダー：縄田浩志)

### ●文明環境史領域プログラム

本研究3年目 農業が環境を破壊するとき-ユーラシア農耕史と環境(プロジェクトリーダー：佐藤洋一郎)

本研究2年目 環境変化とインダス文明(プロジェクトリーダー：長田俊樹)

本研究2年目 東アジア内海の新石器化と現代化・景観の形成史(プロジェクトリーダー：内山純蔵)

予 備 研 究 メソポタミア文明における王朝の興亡と環境(FS責任者：渡辺千香子)

### ●地球地域学領域プログラム

本研究5年目 亜熱帯島嶼における自然環境と人間社会システムの相互作用(プロジェクトリーダー：高相徳志郎)

本研究5年目 流域環境の質と環境意識の関係解明-土地・水資源利用に伴う環境変化を契機として(プロジェクトリーダー：関野 樹)

本研究2年目 社会・生態システムの脆弱性とレジリエンス(プロジェクトリーダー：梅津千恵子)

### 研究推進戦略センター

平成19年10月より研究推進センターを改組して、研究推進戦略センターとして活動を開始しました。地球環境学にかかわる研究の支援と推進のため、研究の策定、推進、成果・広報の発信に関する総合的な活動を進めています。(研究推進戦略センター長=秋道智彌)

# ■ 施設

人間という存在と自然の複雑な関係の解明を目指して、いわゆる理系・文系などといった分野を超えた真に総合的な学問の基盤形成を目指しています。複数の研究プロジェクト等が、大空間に雑居するような雰囲気の中で、いつでも、そして誰とでも会話が始められるように工夫されています。いわば、「知的回遊」のための回廊の組み合わせです。



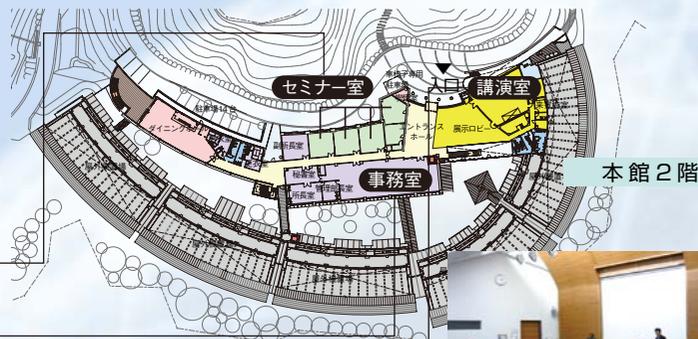
**管理部事務室**

ワンフロアに所長室、管理部長室のほか、事務室(総務課、財務課、研究協力課)が集中配備されています。



**セミナー室**

可動式間仕切りで少人数のセミナーから最大150名規模のセミナーが開催できます。



**本館2階**



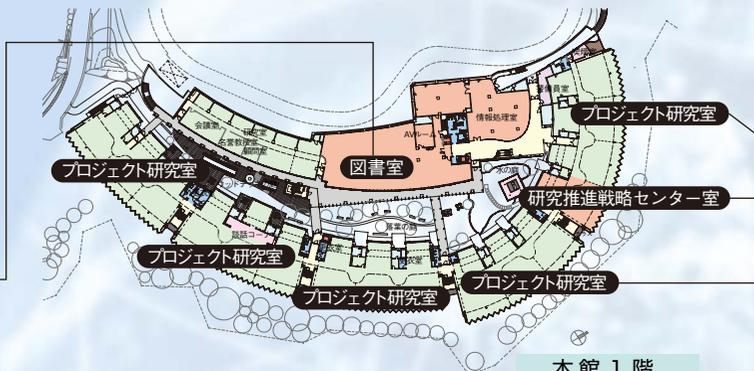
**講演室**

約120人収容できます。可動舞台、同時通訳ブースがあります。



**図書室**

図書(約14,000冊)、雑誌(約110タイトル)を収納しています。(平成20年3月末現在)

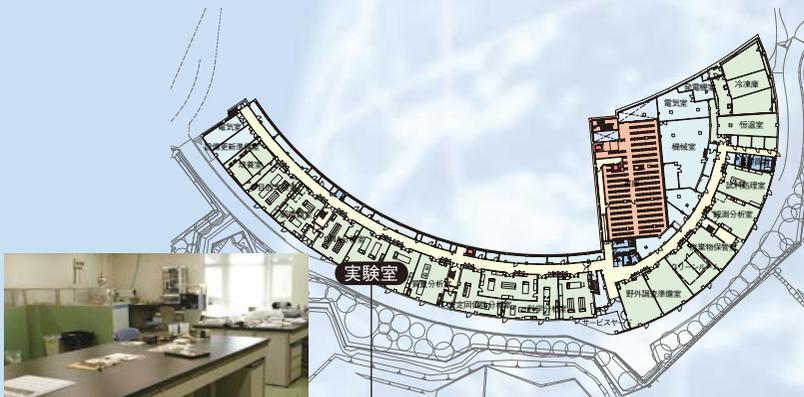


**本館1階**



**プロジェクト研究室ゾーン  
研究推進戦略センター室**

本館1階は各研究プロジェクトと研究推進戦略センターが入る大きなゾーンです。オープンスペースのため、自由に往来し議論することができます。



**本館地階**



**実験室**

質量分析室、クリーンルーム、安定同位体分析室、DNA分析室、化学分析室、多目的実験室、冷凍室などがあります。



**地球研ハウス**

国内外の研究者の短期宿泊、長期滞在が可能です。ゲストと地球研スタッフの交流の場が設けられています。





## 主なイベント

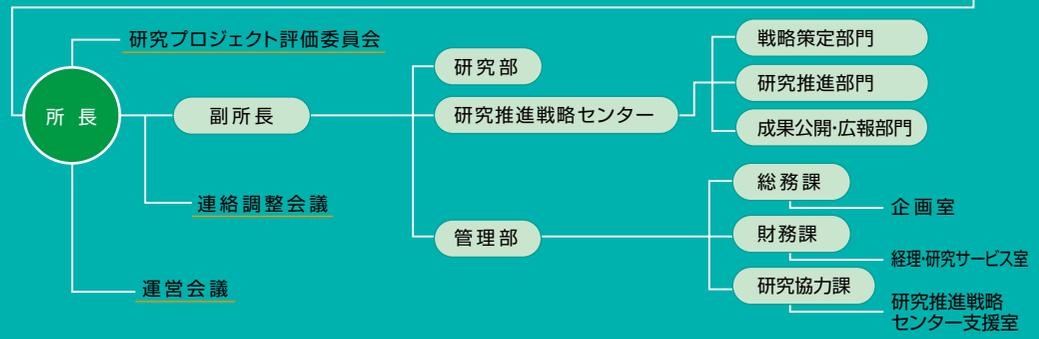
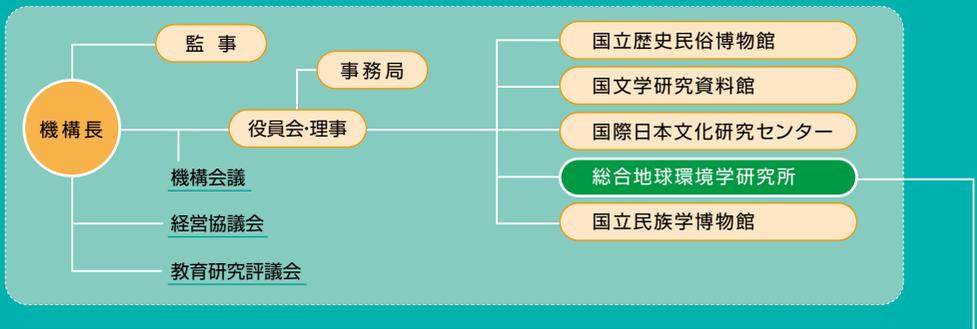
### ● 第7回地球研フォーラム

「越境する環境問題」  
2008(平成20)年7月5日(土)  
於：国立京都国際会館 Room A

### ● 地球研市民セミナー 年8回程度開催

### ● 地球研第3回 国際シンポジウム

「島嶼の固有性と脆弱性」  
2008(平成20)年10月開催予定  
於：地球研講義室



## 総合地球環境学研究所

### ■ 交通案内

叡山電鉄鞍馬線「京都精華大前」または「二軒茶屋」下車、徒歩10分

地下鉄「国際会館」下車、京都バス40系統「京都産業大学經由市原ゆき」、または50系統「市原ゆき」に乗り、「地球研前」下車すぐ。

